

「フードバンクインデックス」システムのしくみ

この仕組みのポイント

- 本市が運営する農業者等紹介サイト「熊本市産品事典」と、熊本ネクストソサエティ(株)と崇城大学が構築する「フードバンクインデックス(次ページ参照)」を連携させ、全国の流通業者のニーズを農業者等に提供することで、販路開拓を推進する。
- 産学官が連携してクラウド型システムを構築し、流通業者のニーズを農業者等に提供し、生産・製造にフィードバックするとともに、効率的な物流を実現するもので、広域的な販路拡大として**国内でもあまり例のない**取組み。

1

農業者等の情報をインデックスへ登録

- ・基本情報(住所・連絡先等)
- ・農産物等の収穫時期・価格情報
- ・加工食品等の原材料・製造方法・発注ロット

農業者
食品製造業者
(農業者等)

産品事典
専用アプリ

フードバンク
インデックス

専用サイト

2

- ①農業者等からの新着情報の提供
- ②専用サイトを活用した農業者等に関する情報収集、農産物等の検索

「熊本ふれんず」プロジェクト
への取り込み

百貨店
スーパー
飲食店
(流通業者)

4

流通業者からの農産物等の問合せ、商談への対応

農業者等に、農産物等について問合せや商談のオファー

3

物流は熊本ネクストソサエティ(株)がまとめて実施
※流通業者側の販売状況や注文量などに応じて、効率的な物流方法を選択
(例. 農業者等から直接配送や熊本ネクストソサエティ(株)が取りまとめて配送など)

※「熊本ふれんず」プロジェクト
熊本の農水産物や加工品を積極的に取り扱って
いただける飲食関係者を「熊本ふれんず」として認定し、
総合的にプロモーションを展開。

連携協定における3者の役割

フードバンクインデックス

生産(農業者・農産物等)、流通(販路情報・売上情報等)及び消費(消費履歴・栄養学等)に関する情報をそれぞれデータベース化するとともに、それらの情報をマッチングすることで農業者等の販路開拓を行うクラウド型システムのこと。

フードバンクインデックス

熊本ネクストソサエティ(株)

- ①「フードバンクインデックス」を構築し、その管理運営を行う。
- ②「熊本市産品事典」と「フードバンクインデックス」を連動させることで、農産物等の販路開拓支援を行う地域商社の役割を担う。

崇城大学

フードバンクデータベース

「フードバンクインデックス」の核となる基本システム

- ①「フードバンクインデックス」の核となる基本システムの研究開発を行う。
- ②将来的には、IoT・AI技術を活用し、消費者、農業者、食品製造業者及び流通業者のデータを自動収集するとともに、マッチングのシステムを構築する。

熊本市

- ①「熊本市産品事典」を「フードバンクインデックス」に連携させる。
- ②熊本連携中枢都市圏の農業者等に対して、この取組みを積極的に紹介し、参加者を増加させる。

熊本市 産品事典

崇城大学・ネクスト社の共同研究内容と今後の研究計画

崇城大学

熊本ネクストソサエティ(株)

共同特許:「栄養学的観点に基づいた生産流通システム、生産流通方法、生産流通システム用プログラム」(特許第6268465号)

フードバンクインデックス

特許技術の取り込み

学術的データベース

【学術情報】

栄養学、気象データなど
※他の大学の研究データとも連携

(例)

- ・農水産物の栄養成分
- ・風邪の症状にはビタミンCが有効
- ・天候によって売れるもの、売れないもの等

フードバンクデータベース

【各種販売情報】

「フードバンクインデックス」の核となる基本システム



- ・消費者の購入データ
- ・販売管理データ など

データの蓄積・解析

今後の研究計画

- ・学術情報と各種販売情報それぞれ蓄積・解析し、消費者の購買行動を研究。
- ・販売情報(商品のタグ等)を活用した流通の最適化と、在庫問題解決方法を研究。
- ・消費者の購買行動研究を基に、AIによる店舗での販売計画の立案と、それに基づく仕入れ・在庫管理等を研究。